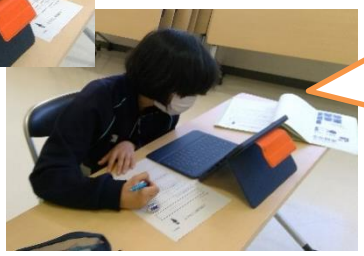
山梨県立わかば支援学校　地域支援だより　No. 3

WAKABA

令和4年　1月28日発行　　文責:上田知己

わかばの　ICT を活用した授業紹介

文部科学省が 2019 年度から推進している GIGA スクール構想（教育現場で児童生徒がひとり一台のパソコンやタブレットなどの ICT 端末を活用できるようにする取り組み）がコロナ禍で早まり、本校でも今年度から小・中学部の児童生徒にひとり一台、高等部の生徒の 3 人に一台のタブレットが活用できるようになりました。そこで、今回はわかば支援学校での ICT 活用の様子をご紹介したいと思います。



≪高等部≫1 年生の職業科の授業で、タブレット端末を使って「13 歳のハローワーク」のホームページから、自分の興味のある仕事について調べました。世の中にどんな仕事があるのか、その仕事に就くためにはどんなことが必要なのか等、学びを深めることができました。生徒も真剣に取り組みました。

≪中学部≫ふれあいタイム（総合的な学習の時間）のワールド Q 班の活動の中で、タブレット端末を活用した調べ学習に取り組みました。1～3年生が一緒に学習する縦割りという授業の利点を生かし、上級生が下級生に調べ方を教えて、それぞれのタブレット端末で調べたり、調べた結果をお互いに発表し合ったりしました。生徒によっては、さらに気になった項目について深く調べる生徒もおり、とても意欲的に活動に取り組むことができました。

≪小学部≫生活単元学習 「大根を育てよう」
タブレット端末を使い、大根の生長の記録写真を児童が自分で撮影しました。はじめは、撮りたいものを画角に収めることが難しい児童が多く、教師の支援が必要でした。しかし、観察の学習を積み重ねていくことで、自分の大根がどれなのかわかるようになり、画角にも納められるようになりました。自分で撮影したものをプリントアウトし、ワークシートに貼ることで、長い期間をかけて生長していく植物の様子を手元で見ながら振り返ることができました。

わかばちゃん「ちょっと聞いてくりょ～し」

子どもの「してほしい行動」を増やすには

4つのポイントがあります

①スモールステップを積み重ねる
②子どもの心地の良いことをする
③未来が理解できるようにする
④できていない時だけでなく、できている時に目を向ける

今回はこのうちの①と②について紹介したいと思います。

① スモールステップを積み重ねる

ある行動をさせたい時、その行動をいくつかのステップに分けて考えます。
例えば、「手を洗う」という行動では、このようなステップが考えられます。

腕をまくる

水を出す

石鹸をつける

手をこする

水ですすぐ

水を止める

手を拭く

一度に、これらをすべてさせようと思うのではなく、このうちの子どもができそうなところを取り上げます。他のところは支援しても、できたら子どもを褒めたりプラスの言葉かけを増やすことができます。子どもを褒めるような状況を多く作ることで、その行動をやってみたいというきっかけになります。

② 子どもの心地の良いことをする

してほしい行動をした時に、すぐにその子どもが心地よいと感じることをします。
例えば、「褒める」「ハグ」「ハイタッチ」「面白いこと」「ダンス」など、その子が喜ぶことです。
ポイントは、「すぐに」と「その子どもにとって心地の良いこと」です。触られるのが嫌な子どもにハグなどをしても心地がよくないですよね。また、「後で」が通じる子どもなら良いですが、なるべくその場ですぐにする方が効果的です。
その行動をしたら心地よくなると感じられれば、その行動は増えます。
逆に、してほしくない行動を減らしたい時は、危険な行動でない限り、その行動に対して「無反応」（無視する）という方法も有効です。「怒る」という行為が子どもにとって「かまってもらえて嬉しい」というご褒美になってしまうことがあるからです。

次回の WAKABA では、③④についてお伝えします。

山梨県立わかば支援学校
〒400－0226　南アルプス市有野３３４６－３
ＴＥＬ：０５５－２８５－１７５０
ＦＡＸ：０５５－２８５－５８２７
受付時間
月・水 13:30～17:00 火・木・金 9:30～17:00
担　当：地域支援部（　丸山 なつ江　木村　千里　武井 明子　鮫田　直子　）
【URL】ｈｔｔｐ://www.ｗａｋａｂａｙ．ｋａｉ．ｅｄ．ｊｐ/
【E-Mail】ｗａｋａｂａｓ@ｗａｋａｂａｙ．ｋａｉ．ｅｄ．ｊｐ